

新年祝賀会 報告

恒例となっている新年祝賀会が、1月5日（月）午前10時から多摩キャンパス1号館4階1406号室において、役員・教職員・学会役員が一堂に会し、たいへん華やいだ雰囲気の中で開催されました。



(右) 佐藤光信 学会副会長・評議員会副議長、久野修慈 理事長、永井和之 総長・学長の三名による鏡開き
(下) 万歳三唱



皆さん、新年明けましておめでとうございます。

今年は非常に天気がいい日ばかりでございまして、皆さん方もすがすがしい新年をお迎えになったのではないかと心からお慶び申し上げます。先生の皆さん、職員の皆さん、OBの皆さん、すべての皆さん方が、新しい年に、新しい決意のもと、新年を迎えられているものと存じます。

私も中央大学の理事長として、今年は「やらねばならないことは必ずやる」ということで物事を進めてまいりたいと思っております。いずれにせよ、こういう経済環境は、国際的、国内的に、そして大学にも影響を及ぼしてくることは事実だと思えます。しかし、そういうことに負けてはならないと思えます。今こそ中央大学が総合大学として力をつけるための基盤強化に全力を挙げることが、一番重要だと思っております。基盤強化のためには、先生方、職員の皆さん方、OBの皆さん方の総意形成、そしてお互いに本当

に心を一つにして前に挑戦していくことが、今こそ重要なときではないかと思っております。それだけに、今日お集まりの先生方、職員の皆さん方、そしてOBの皆さん方には、中央大学が将来を目指して本当の基盤を強化するためのご理解、ご協力、お力をかしていただきたいと、年頭に当たりまして心からお願い申し上げます。

先日、「箱根駅伝」が行われまして、成績は10位でありました。しかし、私は、この10位は1位に値するものと思います。これは箱根駅伝におけるこれからの挑戦といえますか、新たな道を中央大学に開いていただいた、こう前向きに私は捉えているわけであります。

浦田監督は、新聞紙上において「10位を確保してよかった」と、本当に冷静に話しております。私は、最初に浦田監督にお会いしたときに、「この人は冷静だな、若干、根暗かな」と思っておりましたが、3回ばかり酒を飲んだり、常磐橋での挨拶を聞いておりますと、「短い言葉の中で科学的に物

久野理事長 年頭挨拶

